

知識科学セミナー(担当:創造社会デザイン研究領域)

テーマ

創造社会におけるパターン・ランゲージとジェネレーター

講演者： 慶応義塾大学・総合政策学部・教授

井庭 崇 氏

日時： 令和5年12月11日(月) 15:20~17:20

場所： 知識科学講義棟中講義室

講演要旨：

1990年代から続いてきた「情報社会」の次の時代として、人々が自分たちで自分たちの物や方法やあり方を「つくる」という「創造社会」(Creative Society)であると私は十数年前より提唱してきた。そして、2020年代に入り、実際にそのような社会が始まったと考えている。そのような社会変化がさらに展開されるためには、創造実践を支援するメディアとしての「パターン・ランゲージ」が重要な役割を果たし、さらには、「ジェネレーター」と呼び得る人たちが増えていくことが重要だと考えている。本講演では、それらがどのようなものなのか、事例を交えて紹介するとともに、新しい学問である「創造実践学」の構想について語る。

講演者略歴：

慶応義塾大学総合政策学部教授。博士(政策・メディア)。慶応義塾大学クリエイティブ・ラーニング・ラボ代表、株式会社クリエイティブシフト代表、パターン・ランゲージの国際学術機関 The Hillside Group 理事、および、一般社団法人みつかる+わかる理事。専門は、創造実践学、パターン・ランゲージ、システム理論。慶応義塾大学環境情報学部卒業後、同大学大学院政策・メディア研究科修士課程および後期博士課程修了。2009年にはマサチューセッツ工科大学スローン経営大学院 Center for Collective Intelligence (MIT CCI) 客員研究員、2018年にはオレゴン大学 Portland Urban Architecture Research Laboratory (PUARL) 客員研究員として研究に従事。著書に、『ジェネレーター』(学事出版、2022年)、『クリエイティブ・ラーニング：創造社会の学びと教育』(慶応義塾大学出版会、2019年)、『パターン・ランゲージ：創造的な未来をつくるための言語』(慶応義塾大学出版会、2013年)、『社会システム理論：不透明な社会を捉える知の技法』(慶応義塾大学出版会、2011年)、『対話のことば：オープンダイアログに学ぶ問題解消のための対話の心得』(丸善出版、2018年)、『プレゼンテーション・パターン：創造を誘発する表現のヒント』(慶応義塾大学出版会、2013年：グッドデザイン賞受賞)、『旅のことば：認知症とともによりよく生きるためのヒント』(丸善出版、2015年：オレンジアクト認知症フレンドリーアワード大賞、グッドデザイン賞受賞)、『プロジェクト・デザイン・パターン：企画・プロデュース・新規事業に携わる人のための企画のコツ32』(翔泳社、2016年)、『おもてなしデザイン・パターン：インバウンド時代を生き抜くための「創造のおもてなし」の心得28』(翔泳社、2019年)、『園づくりのことば：保育をつなぐミドルリーダーの秘訣』(丸善出版、2019年)、『複雑系入門：知のフロンティアへの冒険』(NTT出版、1998年)等。

お問合せ先：先端科学技術研究科 教授 林 幸雄 (Email: yhayashi@jaist.ac.jp)